

新たな志ある人々と横並びになって
ここから、本格的にスタートする
—「革命21」準備会の基本と活動について（経過報告から）

スタート総会に至る経過から

本日のスタート総会が開かれているこの5月は、1968年パリの5月革命の40周年にあたります。それは、ベトナム革命、中国プロレタリア文化革命の高揚と連動して、世界中の若者たちがソ連社会主義の変質を超えていく新たな革命を掲げて燃えた「68年世界反乱・世界革命」の潮の始まりを意味していました。この世界反乱の潮の中でわたしたちの多くが決起し、この時期に関生支部も誕生したことを考えますと、感無量の想いがいたします。（中略）

さて、07年3月、大阪にて「関生コムニスト同志会」の発した《労働者宣言》の「世の中を変えていこう」「資本主義を倒していこう」との呼びかけを契機とし、名前のない新党準備会が発足しました。この1年、わたしたちは、準備会の公然化と本格的活動開始に先立って以下の課題に取り組んできました。

——①、関生労働運動の産業政策と生産協同組合路線に20世紀社会主義の挫折を超える新たなコミュニズム（アソシエーション革命）の可能性についての確信を思想・理論的に深める。②、「党のための党」でなく、新党準備の魂が「光放つ労農民衆の運動の発展」にあるとすれば、「何から、どのように」共同していくかを見定める。③、「新党」の新しい理念・革命路線についての共同討議・共同作業に着手。④、新党の新しい概念と組織原理・型（リゾーム状の）の具体的イメージを探求。——

こうして、「関生型労働者運動」が持つ意義を理論的実践的に明らかにし共有しながら、資本主義の次をめざす闘い、「協同組合型社会（アソシエーション）」の確信を深めました。これまでの「唯一前衛党論・中央集権制」の組織論を乗り越える党員主権、民主自治制、分権制など、つまり異論があっても団結可能な味方の協同基準についても模索し、唯一前衛主義でもアナーキズムでもなく差異と多様性でありながら、共通の合意を大切にする「組織原理」と「運動型新党」の構想を発見してきました。また、「何から、どのように」共同していくかについては、「非正規労働者の協働センター」構想の実現、「労働学校の共同開催」の模索や沖縄教科書問題への共同の取り組みなどとして、実現されてきました。

この1年のこうした活動は、総会に提出された「呼びかけ案」「プログラム（骨子）案」に凝集されています。この「下準備」ともいえる1年の成果を、みなさんに共有していただき、本日をもって、共に全国に「呼びかけ」を発し、新たな志ある人々と横並びになって準備会の本格的なスタートにしたいと思えます。この新たなスタートに当たって強調しておきたいのは、これまで下準備をしてきたものと、これから新しく共に歩むものとの間には、何らの区別無く、対等、平等であるということです。（生田あい）

（以下、紙面の都合上、総会に提出された「経過報告と提案」レジュメより、「準備会の基本と活動について」をご紹介します。）

革命 2 1 準備会の基本と活動についての確認

- 1、自立した自由な諸個人の結集を基本とする。ただし、グループの結集も積極的に推進する。結集した個人とグループは対等である。当面、各地域に多様な情報の共有・協議・運動推進の「センター的機能」をもつ準備会を形成する。
 - 2、新党準備会の名称は「革命 2 1」、準備会の本部は大阪に置く。
 - 3、準備会は、準備会全国機関紙「コモンズ」（当面月一回）、「内部ニュース」を発行する。
 - 4、準備会は、準備会段階では代表をおかず、運営委員会・事務局で運営していく。また、顧問の制度をおく。
 - 5、運営委員会は、各地方準備会、産別、諸戦線、重要な個人で構成。今後の運動と組織の発展・本格化に即して自己補充する。運営委員会は、年に 2 - 3 回開催する。
 - 6、準備会の会費・賛助会費は、当面個人 1 ヶ月最低 2 0 0 0 円を目処に自発の厚志をお願いする。
 - 7、準備会段階から労働運動、農民運動などの運動戦略・基本政策などの研究プロジェクトを形成。学者・知識人の協力を組織し、政策シンクタンク・労働学校・「党」学校の教育プログラム・講師陣を形成。
 - 8、弾圧対策学習と諸準備。
 - 9、「革命 2 1」の正式結成への諸準備として、「プログラム草案」と「規約案」の作成をする。
 - 10、世界社会フォーラム、東アジア社会運動関連への参加、関生の韓国労働者との交流、国際連帯活動を発展させる。（以下、略）
- (08 年歴史的情勢の中での当面の運動については、中岡冒頭挨拶を参照)